

おいしいたけプロジェクト ～新キャンパスに憩いの場を～

・ 構成員

代表者	： 長広茜	(国際文化学科 3年)			
会計	： 北澤未来	(国際文化学科 3年)			
指導教員	： 安溪遊地	(国際文化学科)			
メンバー	： 谷崎千晃	(国際文化学科 2年)	長田翔子	(国際文化学科 3年)	
		中村恵理子	(国際文化学科 2年)	和田亜優夏	(国際文化学科 1年)
		金チャンソン	(国際文化学科 交換留学生)		

・ プロジェクトの目的

「夢の森プロジェクト」を通して先輩方が残してくださったものを引き継ぎ、夢の森を中心に県大に人を集め、交流の場作りをする。また、しいたけの原木栽培を通してしいたけ農協と連携し、生産者になることが学生の就業体験と成り得る。これらの一連の活動を通し、地域と大学のつながりをより強くすることができる。

・ 活動内容

1. 「夢の森すっきり」計画

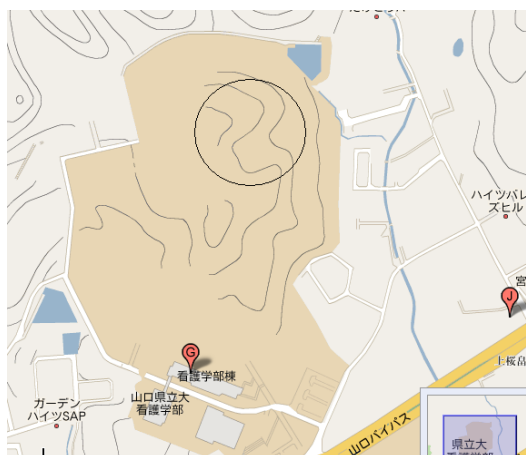
最初の取り組みとして、活動の拠点である夢の森を整備してすっきりさせました。夢の森には、「夢の森プロジェクト」に取り組んでいた先輩方が残してくださったしいたけのほだ木が約 300 本山積みにしてありました。しいたけはコマというしいたけの種菌をほだ木に打ち込み、その木を 1 年～2 年ほど寝かせ木に菌を充満させた後、立てかけて並べるとやっと生えてくる状態になります。私たちのスタートは、先輩方が残してくださった約 300 本のほだ木を一本一本丁寧に起こしていくことでした。しいたけの収穫が行いやすく、栽培に適している湿度が保たれる日陰になっている場所を探し、木と木の間に竹を渡し、そこに交互に立てかけて並べ、しいたけがいつでも生える状態にしました。入口付近の草刈も行い、夢の森が以前より明るくなりました。



【夢の森整備中】



【整備後の夢の森】



【○が夢の森の位置】

2. 「おいしく食べよう」計画

6月半ばになると、湿気が大好きなしいたけはたくさん顔を出してきました。しいたけの旬はこの時季と秋の年2回。週に1~2回収穫に行っても、次から次に出てきます。特に10月から11月にかけては、しいたけのおいしい季節で、香りがよく、形も立派なしいたけが約3000個以上収穫できました。

写真にもあるように、収穫したしいたけは一度天日干しをし、葉っぱなどを落とします。そのしいたけをどうにか活かしたいと思い、県大の食堂に食材として提供できないかとかけあうも、安定供給ができないと難しいとの回答を受けました。残念ながら食堂への提供は断念しましたが、せっかくなので、県大の学生や職員のみなさん、出会う人出会う人へおすそわけしてまわりました。

また、しいたけ栽培のプロがいらっしゃるしいたけ農協へおすそわけに行った際に、栽培に関するアドバイスや参考資料を提供していただき、栽培の参考にさせていただきました。



【収穫後の天日干し】



【裏側を上に向けます】

3. しいたけ先生としいたけちゃん

11月13日(土)には、栄養学科のみなさんが主催されている食育のプログラムに参加しました。そこで山口市内から集まった小学校1~3年生の子ども達に「しいたけ先生としいたけちゃん」として、原木栽培のしいたけについてミニ授業を行いました。

ミニ授業の中では、しいたけに関する簡単なクイズや原木栽培の方法についておはなしをしました。授業の中で行った「原木しいたけはどのように生えるか。」というクイズで、半数以上の子ども達が「地面から生える。」という答えを選んだことにとっても驚きました。

また、実際に原木を見せると、興味津々で触ってみたい、匂いを嗅いだりしながら、しいたけを満喫していました。収穫の体験をしてみたいという声も多かったので、うまく取るコツを教えると、みんな目を輝かせながら挑戦していました。このような形で自分たちが得た知識を役立てられて、私たちにとってもよい経験になりました。



【ミニ授業の様子】



【子ども達のために
持って行ったしいたけ】

4. 「生産者になる」計画

11月22日(土)には、県立大学の目の前にあるしいたけ農協にて「山の幸フェア」が開催され、私たちおいしいたけプロジェクトのメンバーはその運営ボランティアとして参加しました。山の幸フェアでは山口県内で栽培されたしいたけの加工品やしいたけの原木の販売が行われ、しいたけ農協の裏に設置された会場はたくさんのお客さんで溢れかえりました。私たちは会場でふるまわれたきのこ汁や山の幸弁当の販売、しいたけの加工品の試食コーナーのお手伝いをしました。

また、自分たちの栽培しているしいたけの原木の展示もさせていただきました。しいたけ農家の方から栽培や管理のアドバイスをいただ



【しいたけ農協】

いたり、お客さんからは消費者の方の視点からどのようなものを買いたいのか、どのようなものを選んで買っているかという意見を聞かせていただいたりしました。実際に生産者側の立場に立ってみると、今まで消費者側だったときの立場とは違ったものの見方をすることができました。自分たちの作ったしいたけを評価していただいたときの喜びは、手間をかけて栽培しないと味わえない感覚だと感じました。



【きのこ汁の販売】

5. 次の世代へ

私たちの活動は、「夢の森プロジェクト」の活動を受け継いで始まりました。先輩方の活動の恩恵を受け、私たちの活動は成り立っています。今度は私たちが次の世代へ、そのバトンを渡す番です。そのために、2011年2月20日（日）にしいたけのコマ打ちを行う予定です。年間を通してしいたけの栽培のご指導をいただいていたマロニエの森の会の方にご協力をいただき、ほだ木の切り出しからコマ打ち、運搬などを実際に体験し、持続可能なこのプロジェクトを盛り上げていきたいと考えています。



【前回のコマ打ち】

・成果及び感想

食物の生産者になるという経験は私たちにとってとても新鮮でした。今回の活動で収穫したしいたけの原木は先輩方から引き継いだものであり、私たち自身は実になるまではあまり手間取ることはありませんでしたが、収穫期は実になる間隔が早く量も多かったので、自然を相手にすることの大変さと難しさを実感しました。また、森の整備においても、ほだ木を運んだり、草を刈ったりするのは思いのほか重労働で、普段口にはできる食べ物を作っている方々への感謝の気持ちを再確認しました。このように活動してきたからこそ、しいたけを収穫する喜び、収穫したしいたけを配った時の笑顔を見る嬉しさは格別でした。夢の森がしいたけ生産の現場になり、このような有意義な経験ができてよかったと思います。また、私たちはマロニエの森の会やしいたけ農協の方々など、多くの方に支えていただいて活動してきました。ここで得たものを次の世代の人たちに残していけるように活動を続けたいと思います。

・指導教員のコメント

「おいしいたけ」は、桜島の地で道路をはさんで立地する県立大と山口県椎茸農協との協力をめざすプロジェクトです。2008年に地域のNGO「マロニエの森の会」とともに整備した新キャンパス内の自然公園「夢の森」を生かそうと、2009年2月に、先輩学生たちが地域のお母さんや子ども達と植えた椎茸菌がいよいよ出始めたことを受けて、後輩に「おいしい森」を作って手渡そうという、持続可能性をめざす取り組みです。

・収支報告

配分額		36,000 円
支出内訳	画用紙	160 円
	看板用ペンキ	2,490 円
	講師代	20,000 円
		円
支出合計		22,650 円
残金		13,350 円